

事業報告

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、上期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言などにより経済活動が抑制され、下期はやや明るさが見えたものの年明け以降に感染が急拡大したことなどから下押し圧力が強まるなど、年度通期で一進一退の動きとなりました。

一方、県内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が見られるものの、住宅投資は増加基調が継続し、雇用情勢も有効求人倍率が堅調に推移し、生産活動や個人消費も持ち直しの動きとなりました。

当社においては、2021年度（第41期）は、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けているものの、地元利用や団体利用がやや持ち直し、鉄道事業収入をはじめ、関連事業収入及び営業外収入は増加しました。

当期は2020年度に引き続き、「いわての学び希望基金」を財源とした岩手県の被災地通学支援事業費補助を活用し、通学定期を半額で販売したほか、三陸鉄道ぶらり旅半額2枚きっぷの発売（4月）、北いわてMa a Sのサービス開始（10月）、公式HPでの定期券事前申込ページの開設（12月）等によるお客様の利便性向上、プレミアムランチ列車（5～6月、10月～11月）、かいけつゾロリ列車（7～8月）、冬季におけるこたつ列車、洋風こたつ列車などの観光列車の運行、さらには企業ヘッドマーク及び車両ラッピングなど企業等との連携により、利用者数の増加と収入の確保に努めてきました。

関連事業として旅行業では、「いわて旅応援プロジェクト」を活用した三鉄沿線駅-1グルメ旅の発売による収入の確保、震災学習列車、復興の今学習列車ツアー等により、引き続き災害学習への需要対応を図りました。

また、物産事業においては、オンラインショップ、直営店「さんてつや」において、当社オリジナルグッズをはじめ、沿線の企業とコラボした商品の販売を行いました。

この結果、輸送人員は、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響や、沿線の少子化等により前年度比95.6%の607,316人となりましたが鉄道事業収入は、地元利用・団体利用の持ち直しや、ラッピング等の広告料収入の増加により前年度比102.2%の325,328千円となりました。

関連事業収入も、旅行業において「いわて旅応援プロジェクト」を活用した旅行商品の販売収入の増により前年度比306.0%となったほか、物産事業においても前年度比100.8%となり関連事業収入全体で前年比113.4%の61,575千円となりました。

経常費用については、修繕費、燃料他動力費、駅共同使用料、損害保険料などが増加したことにより、前年度比112.1%の1,103,120千円となりました。

その結果、経常利益は▲690,147千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は▲4,501千円と前年度と比べて8,253千円の減益、計画と比べて187,831千円の増益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、橋梁・駅ホーム上屋の改修や通信ケーブルの増設、マクラギのPC化工事、変圧器の更新工事を行い、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害や事故の防止に取り組み、鉄道事故0件を継続しています。

【損益の状況】

(単位：千円※税抜)

項目	2021年度 実績	2020年度 実績	前年度 増減	前年度比	2021年度 計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	325,328	318,246	7,082	102.2%	378,172	▲52,844	86.0%
関連事業収入	61,575	54,285	7,290	113.4%	53,088	8,487	116.0%
営業外収益	26,070	25,912	158	100.6%	16,000	10,070	162.9%
経常費用	1,103,120	983,715	▲119,405	112.1%	1,046,863	56,257	105.4%
経常利益	▲690,147	▲585,272	▲104,875	—	▲599,603	▲90,544	—
特別損益	692,350	595,728	96,622	—	411,995	280,355	—
法人税等	6,704	6,704	0	—	4,724	1,980	—
当期純利益	▲4,501	3,752	▲8,253	—	▲192,332	187,831	—

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

2021年度の乗車人員については、依然として新型コロナウイルス感染症の影響や沿線の少子化等に伴い、定期が前年度比93.7%、定期外が同99.5%となり、全体では同95.6%の607,316人となりました。

運輸収入については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、地元利用や団体利用がやや持ち直し、一般個札が前年度比101.6%、一般団体が同125.9%となったことなどにより、全体では同100.8%の258,724千円となりました。

○リアス線全体乗車人員

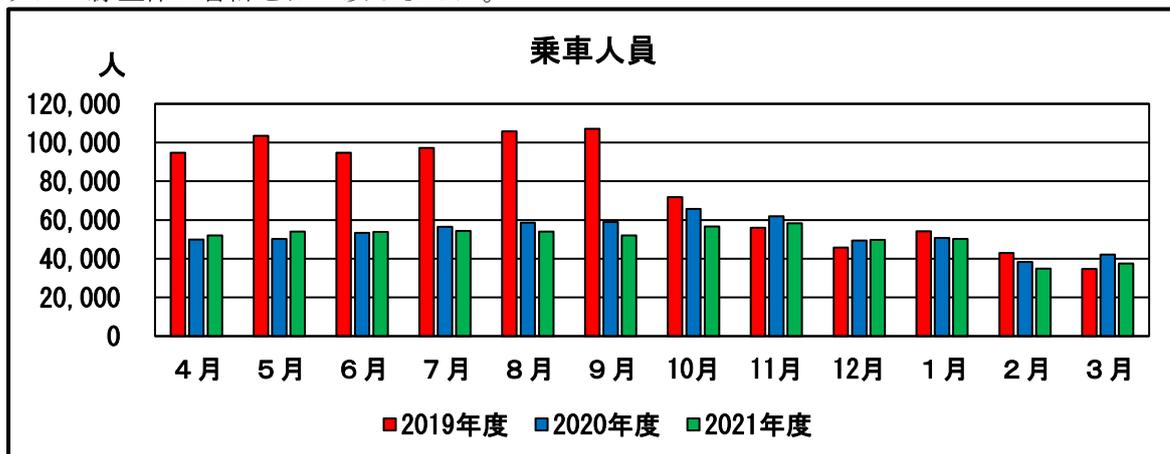
(単位：人)

項目	2021年度	2020年度	増減	前年度比	2019年度
乗車人員	607,316	635,519	▲28,203	95.6%	908,645
定期	402,274	429,363	▲27,089	93.7%	512,622
定期外	205,042	206,156	▲1,114	99.5%	396,023

○線別乗車人員※1

盛～釜石間	115,831	112,855	2,976	102.6%	177,717
釜石～宮古間	243,573	262,432	▲18,859	92.8%	436,895
宮古～久慈間	291,600	296,457	▲4,857	98.4%	380,351

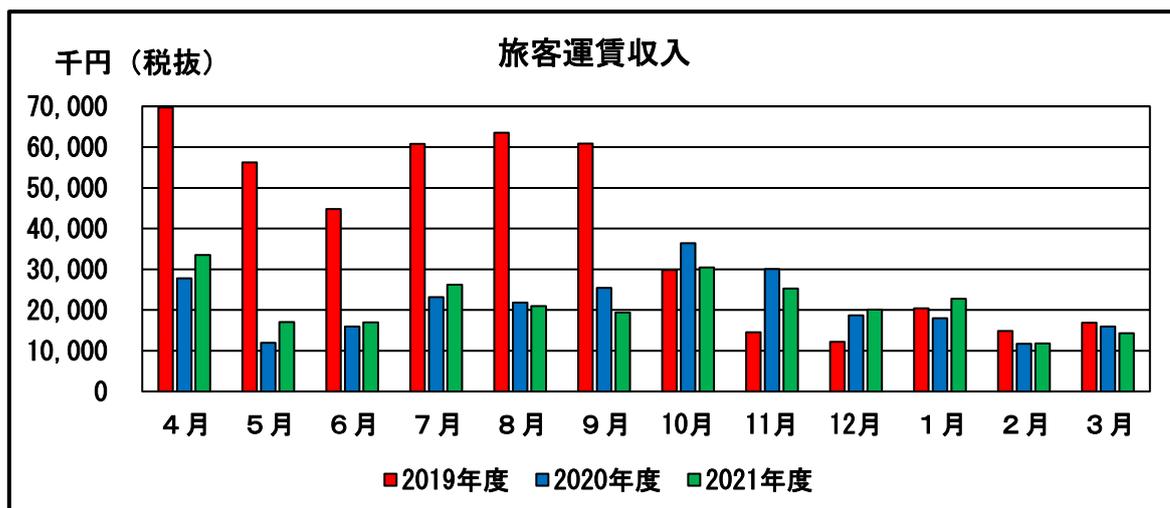
※1 線別乗車人員は、各路線を跨る乗車の場合、それぞれ1人乗車とカウントしてあるためリアス線全体の合計とは一致しません。



○運輸収入

(単位：千円※税抜)

項目	2021年度	2020年度	増減	前年度比	2019年度
運輸収入	258,724	256,661	2,063	100.8%	464,469
定期券	86,336	91,663	▲5,327	94.2%	108,286
一般個札	125,945	123,916	2,029	101.6%	228,912
観光個札	12,974	8,783	4,191	147.7%	34,930
一般団体	17,128	13,602	3,526	125.9%	43,181
観光団体	16,341	18,697	▲2,356	87.4%	49,160



② 運転状況

2021年度の定期列車については、1日当たり、盛～釜石間で22本、釜石～宮古間を同じく22本、岩手船越～宮古間で1本、宮古～久慈間で24本を運転しました。

【運転状況】

駅 間	盛～釜石	釜石～宮古	岩手船越～宮古	宮古～久慈
列車本数	22本	22本	1本	24本

③ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しました。

なお2021年度は、「洋風こたつ列車」・「こたつ列車」や「かいけつゾロリ列車」・「プレミアムランチ列車」などを運転しました。

また、ヘッドマーク掲出やラッピングの実施等、他社と連携した企画も積極的に実施しました。

【主な観光列車】

- ・洋風こたつ列車 宮古～盛駅間 (12月11日～2月27日の土休日)
- ・こたつ列車 宮古～久慈駅間 (12月18日～3月27日の土休日)

【主なイベント列車】

- ・かいけつゾロリ列車 (7月17日～8月9日 12回)

- ・プレミアムランチ列車
宮古～久慈駅間（5月8日～6月27日の土休日）
宮古～盛駅間（10月23日～11月28日の土休日）
- ・冬休み自由研究列車 盛～釜石駅間（12月28日～1月9日 6回）
- ・絶景！三鉄車窓ギャラリー列車（10月・1ヶ月間）
- ・三鉄ARTGALLERY列車（1月15日～3月31日）

【他鉄道会社との共同企画列車】

- ・銀河リアス号 盛岡駅～恋し浜駅間（7月3日・8月7日 2回）
- ・トロッコ列車風っこ 花巻駅～宮古駅間（8月14日～15日 1回）
（東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社と共同企画）

④ 企画乗車券の発売等

- ・三鉄ぶらり旅半額2枚きっぷを発売（4月10日～3月31日）
- ・小中学生用特別回数券を発売（12月1日～）
- ・期間限定中高生フリー乗車券を発売（12月25日～3月31日）

⑤ 鉄印帳の発売（2020年度から継続）

- ・第三セクター鉄道等協議会加盟40社共同企画として鉄印帳を発売
- ・東北DC期間限定鉄印を発売（4月1日～9月30日）
- ・「こども鉄印コンテスト」入賞作品を発売（3月19日～）

⑥ 観光庁「既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業」を活用したモニターツアーの実施

- ・仙台 日帰りツアー2回・1泊2日ツアー1回
- ・八戸 1泊2日ツアー1回 ※日帰りツアーは新型コロナウイルス感染拡大により中止
- ・盛岡 1泊2日ツアー2回

⑦ 企業等との連携

- ・企業ヘッドマーク及び車両ラッピングの実施
ヘッドマーク ブラザー工業(株)、岩手日報広告社等
車両ラッピング イオン東北(株)、東北電力(株)、(株)岩手リオン等、ライオンズクラブ等

(2) 関連事業営業概況

① 旅行業

2021年度は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響により、団体扱いは大幅に減少しているものの、「いわて旅応援プロジェクト」を活用した個人向けの新商品「三鉄沿線駅 - 1 グルメ旅」を発売し収入の確保に努めました。

また、募集型企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、昨年引き続き岩手県内・東北地方の学校の修学旅行で震災学習列車への参加が増加しました。

【主な旅行業の実績】

- ・着地団体：オリジナル震災復興研修 取扱なし（前年度1件 11名）
- ・教育団体：中学校・高校修学旅行 4校 226名参加（前年度3校 139名）
- ・一般団体：大型客船寄港OPツアー 1件 55名参加（前年度取扱なし）
- ・募集团体：かいけつゾロリ列車企画 12回 409名参加（前年度12回 459名）
- ・震災学習列車：190件 9,577名参加（前年度132件 5,613名参加）
- ・三鉄沿線駅 - 1 グルメ旅：第1弾2,250名・第2弾2,009名

② 物産事業

ア 直営店「さんてつや」の営業

沿線市町村を中心とした特産品や当社オリジナルグッズを販売したほか、定期的に特設コーナーを設けるなど、販売促進に努めました（店舗での売上 16,642 千円）。

イ オンラインショップの運営

当社オリジナルグッズを中心に販売を強化したほか、定期的にセールを実施し、売上強化に努めました（売上 27,464 千円）。

ウ オリジナル商品の開発・販売

- ・「さんてつポロシャツ」・「さんてつミニハンカチ」・「さんてつカレンダー2022」等、計 9 品
- ・三鉄ギフト（夏・冬）の販売

夏（6月～8月）[10,873 千円]・冬（11月～1月）[11,406 千円]

- ・地元菓子店「日進堂 DOUNEL」とのコラボレーションによるバレンタイン企画を実施
「久慈ありすのバレンタインショコラ」・「釜石まなのバレンタインショコラ」

エ イベント外販

- ・沿線市町村・関係団体等との連携によるイベント（オンラインを含む）への出店（24 回）

オ ふるさと岩手応援寄付

- ・ふるさと納税制度を活用した、岩手県のふるさと岩手応援寄付による、三陸鉄道支援に対する返礼品等の発送を行いました。

寄附いただいた人数 83 人 取扱額 775 千円

カ 岩手県GoToEatキャンペーン事業

- ・食事券の販売事務受託。

(3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、2021 年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

なお、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

また、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

① 安全対策事業

- ・鉄道軌道安全輸送設備等整備事業

リアス線唐丹～堀内駅間橋りょう改修工事（3箇所）

リアス線綾里～三陸駅間通信ケーブル増設工事

リアス線盛～陸前赤崎・宮古～一の渡駅間マクラギPC化工事

リアス線普代駅・陸中宇部駅ホーム上屋改修工事

リアス線変圧器更新工事（10台）

② 保安対策事業

- ・外部訓練への参加
- ・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施
- ・異常時対応の実車訓練を実施（車両故障対応）

(4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、今期においては、次のとおり支援を受けました。

・ 運営費補助（設備維持補助）	241,767 千円
・ 運営費補助（人材確保支援）	15,000 千円
・ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助	261,887 千円
・ 三陸鉄道経営移管交付金	155,226 千円
・ 三陸鉄道運行支援交付金	174,000 千円
・ 地域公共交通確保維持改善事業費補助	11,625 千円
・ 既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業補助	64,129 千円
・ 第二赤崎橋梁改築工事に関する工事協定（軌道工事）	33,516 千円

3 対処すべき課題

2021 年度（第 41 期）は、前期に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているものの、地元利用や団体利用がやや持ち直し、旅客運賃収入、関連事業収入及び営業外収入は増加しました。一方で、修繕費、燃料費や駅共同使用料、損害保険料などが増加したことにより経常費用が増加した結果、経常損益は減益となり、厳しい経営状況となりました。

同ウイルス感染症について、引き続きお客様の協力もいただき、感染症拡大防止対策を実施しながら、安全安心な輸送の確保を図っていきます。

その上で、住民の利便性やニーズに配慮したダイヤの設定や定期運行、多くの皆様が楽しめるイベントや企画列車の実施など地域の方々に日々愛され、利用される鉄道を目指します。

また、平成 31 年 1 月に認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」に則り、「安全・快適な輸送サービスの確保」、「利用促進等による収入の確保」、「一貫運行による経営の改善等」に引き続き取り組み、安全性・利便性の向上や投資計画・経費構造の抜本的な見直し、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を図っていきます。

さらに、国際目標である SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を取り込み、事業を通じて SDGs の課題解決に貢献するとともに、事業の持続的な成長を目指します。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 295,403 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助金	261,887 千円
(1) リアス線唐丹～堀内駅間橋りょう改修工事	5,296 千円
(2) リアス線綾里～三陸駅間通信ケーブル増設工事	96,243 千円
(3) リアス線盛～陸前赤崎・宮古～一の渡駅間マクラギ PC 化工事	132,096 千円
(4) リアス線普代駅・陸中宇部駅ホーム上屋改修工事	16,030 千円
(5) リアス線変圧器更新工事代	12,222 千円
○ 盛・陸前赤崎駅間第二赤崎橋梁改築工事に関する工事協定	33,516 千円
(1) 第二赤崎橋梁軌道改築工事	33,516 千円

5 資金調達の状況

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、旅客の減少に伴い運賃収入が大幅に減少し、経営が圧迫されることから岩手県より短期借入を行いました。

2021年度借入額 165,000千円（2022年3月30日に返済）

6 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	2018年度 (第38期)	2019年度 (第39期)	2020年度 (第40期)	2021年度 (第41期)
営業収益	337,402千円	684,982千円	398,443千円	412,973千円
当期純利益	▲14,455千円	151,229千円	3,752千円	▲4,501千円
1株当たり当期純利益	▲472円	4,942円	122円	▲147円
総資産合計	1,887,785千円	884,968千円	2,651,915千円	1,293,056千円

7 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第1種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第2種旅行業
- (3) 物品販売業

8 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町4番地
事業所	・事業本部 宮古市栄町4番地
	・運行本部 宮古市宮町1丁目1-19
	・施設本部 宮古市宮町1丁目1-50
	・旅客営業部 宮古市宮町1丁目1-80
	宮古駅 宮古市宮町1丁目1-80
	・大船渡派出所 大船渡市盛町馬場4-4
	釜石駅 釜石市鈴子町22-5
	盛駅 大船渡市盛町東町裏16
	・久慈派出所 久慈市川崎町10-20

※市町村等への業務委託駅：綾里駅・三陸駅・大槌駅・陸中山田駅（休業駅：田老駅）

岩泉小本駅・島越駅・田野畑駅・普代駅・陸中野田駅・久慈駅

9 従業員の状況

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	80名	43.7才	17年6ヶ月
女 子	8名	32.3才	4年7ヵ月
計	88名	42.7才	16年5ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員18名、パート従業員1名、岩手県から2名、東日本旅客鉄道(株)から出向24名を受入れています。

なお、2021年5月31日付けで1名、9月30日付けで1名、2022年3月31日付けで6名が退職いたしました。

10 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.8% (23,200株)の出資を受けています。

※ 岩手県47.1% (14,400株)、沿線市町村22.2% (6,800株)、沿線外市町村6.5% (2,000株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000株
- 2 発行済株式の総数 30,600株
- 3 当事業年度末の株主 46名
- 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400株	47.1%
宮古市	1,350株	4.4%
(株)岩手銀行	1,200株	3.9%
大船渡市	1,150株	3.8%
日本製鉄(株)	1,000株	3.3%
東北電力(株)	1,000株	3.3%
一関市	700株	2.3%
久慈市	650株	2.1%
釜石市	650株	2.1%

Ⅲ 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

(2022年3月31日現在)

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増 拓也	岩手県知事
取締役副会長	山本 正徳	宮古市長
取締役副会長	戸田 公明	大船渡市長
取締役副会長	遠藤 譲一	久慈市長
取締役副会長	野田 武則	釜石市長
代表取締役社長	中村 一郎	
取締役	平野 公三	大槌町長
取締役	佐藤 信逸	山田町長
取締役	中居 健一	岩泉町長
取締役	佐々木 靖	田野畑村長
取締役	柁屋 伸夫	普代村長
取締役	小田 祐士	野田村長
取締役	岡田 真一	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井 誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	熊谷 泰樹	岩手県ふるさと振興部長
取締役	石川 義晃	岩手県政策企画部長
取締役	金野 淳一	
取締役	村上 富男	
監査役	田口 幸雄	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
監査役	石塚 恭路	(株)北日本銀行 代表取締役頭取

※代表取締役社長 中村 一郎は2022年3月31日で退任しました。

※取締役 石川 義晃は2022年4月1日より代表取締役社長に就任しました。

2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,040千円

監査役の報酬はありません。

Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。